

教室環境・教師の共通理解・行動

教師の立ち位置（実態に応じて）

- 1・2年…司会を一緒にやる。又は司会の後ろでやり方を教える。
 - 3～6年…司会者の横にしながら、進行や意見に補足・補助をするようにする。
- ※必ずしも一カ所に留まるのではなく、必要に応じて動いて意見・話し合いを促す。
※話し合いの進め方を司会者だけでなく、全体に指導するとよい。

学級会までの準備

- 毎週金曜日の朝の時間「学年学級の時間」を活用して、学級活動の準備を進める。



中央スペースの使い方（活用の仕方）

- 「やること」のイメージの共有化
※遊びを簡単に実施するなど
- 役割分担用の白板の設置
※人が集まりやすいように

学級会コーナー

- 学級会を開くまで
- 司会グループ表
- 学級会カレンダー
- 議題例
- 学級会ポスト
- 学級会の短冊（学級会前に案を周知）など

学級活動ノート

- 基本的に机上に置かない。必要に応じて見たり、書いたりする。
- ※“意見発表会”ではなく、“話し合い活動”を目指すため

教師のスタンス

- 「適宜指導を行ってよい」（学級会も学習指導の一環）
→小声で児童に伝えるよりも、全体に聞こえる声で話して学級全体を育てる。
- ×「学級会は、話し合い途中で教師が指導してはいけない」
- ・“みんな”とやったから、“みんな”と工夫したから楽しかったという経験を積ませていく。

アイデアの種を蒔くために

- 学級会ノートに自分の考えを書くときには教師が多く例示するとよい。
（子供のアイデアの引き出しを増やしていく）